

# KINDAI UNIVERSITY

FACULTY OF ENGINEERING ARCHITECTURE DESIGN COLLECTION 2015



DESIGN OF DIPLOMA, MASTER, ARCHITECTURAL DESIGN PRACTICE, COMPETITION



# 近畿大学工学部建築学科作品集

## Contents 目次

### Diploma Design 卒業設計

- 01 揺蕩う島
- 02 立体農家 - 農と過ごす -
- 03 自然を内包した建築はヒトのプリミティブな行為を誘発し、生きるプロセスを体現する
- 04 建築のその向こうへ
- 05 伝承 - 都市に淘汰された集落の軌跡 -
- 06 スケールの再構築
- 07 釜山都市の記憶
- 08 ART APARTMENT OF FURNITURE - 家具と暮らす、家具で遊ぶ -
- 09 火山灰ミュージアム
- 10 島廻る記憶 - 野ウサギと毒ガス工場 -
- 11 都市の船廠
- 12 消滅への変遷
- 13 互惠の杜 - 木の畑のある暮らしのすすめ -
- 14 Utopia over the 25m
- 15 新たな仕事と暮らし方
- 16 自然と建築
- 17 ケンチク × クルマ -Automobile Apartment-
- 18 繋がり塔 - 閉じてつなぐまちとのつながり -
- 19 駅舎の在り方
- 20 カンカク
- 21 Valley
- 22 Waffle Chair
- 23 Slinky Chair

瀬藤 謙徳  
齋藤 伊津実  
小泉 景介  
塩澤 竜弥  
清水 潤  
元木 遙  
宮瀬 修平  
渡部 桃子  
松田 一明  
濱本 真之  
市場 靖崇  
松尾 翔  
藤井 隆道  
渡邊 文彦  
青木 将也  
松本 怜大  
大川 紗都子  
妹尾 駿志  
阿古目 悠渡  
高橋 里紗  
田村 優作  
北村 嵩士  
森 崇弥

02

### Master's Design 修士設計

- 01 DRIFT WITH AT THE MERCY OF THE HOUSE
- 02 事象の形態 - 抽象化空間による事象の拡大についての考察 -
- 03 出来事の器 - 「余白」が生み出す新たな住まい方について -

牧 佑育  
手銭 光明  
青戸 貞治

28

### Architectural Design Practice 設計演習 I, II, III

#### 2nd Design 2年 後期建築設計演習 I

- 01 将来の自邸
- 02 コミュニティセンター

#### 3rd Design 3年 前期建築設計演習 II

- 01 現代美術のための美術館
- 02 集合住宅

#### 3rd Design 3年 後期建築設計演習 III

- 01 小学校
- 02 複合施設

集中演習 タマサート大学

36

### Design Competition 設計コンペ

- 01 建築新人戦 2015 \_\_原点が、ここにある
- 02 セントラル硝子国際建築設計競技 2015 \_\_The Glass
- 03 JACS 全日本建築コンソーシアム住宅設計コンペ 2015 \_\_「母の家」～身近な高齢者の1人住まいを考える～
- 04 ひろしま建築学生チャレンジコンペ 2015 \_\_小さな建築の可能性
- 05 第9回長谷工 住まいのデザインコンペティション \_\_100歳の集合住宅
- 06 ユニオン造形デザイン賞公募 \_\_あなたの「どこでもドア」

46



## Diploma Design

01 揺蕩う島	瀬藤 謙徳
02 立体農家 - 農と過です -	齋藤 伊津実
03 自然を内包した建築は、ヒトのプリミティブな行為を誘発し、生きるプロセスを体现する。	小泉 景介
04 建築のその向こうへ	塩澤 竜弥
05 伝承 - 都市に淘汰された集落の軌跡 -	清水 潤
06 スケールの再構築	元木 遙
07 鉦山都市の記憶	宮瀬 修平
08 ART APARTMENT OF FURNITURE - 家具と暮らす、家具で遊ぶ -	渡部 桃子
09 火山灰ミュージアム	松田 一明
10 島廻る記憶 - 野ウサギと毒ガス工場 -	濱本 真之
11 都市の船廠	市場 靖崇
12 消滅への変遷	松尾 翔
13 互恵の杜 - 木の畑のある暮らしのすすめ -	藤井 隆道
14 Utopia over the 25m	渡邊 文彦
15 新たな仕事と暮らし方	青木 将也
16 自然と建築	松本 怜大
17 ケンチク × クルマ -Automobile Apartment-	大川 紗都子
18 繋がりの塔 - 閉じてつなぐまちとのつながり -	妹尾 駿志
19 駅舎の在り方	阿古目 悠渡
20 カンカク	高橋 里紗
21 Valley	田村 優作
22 Waffle Chair	北村 嵩士
23 Slinky Chair	森 崇弥



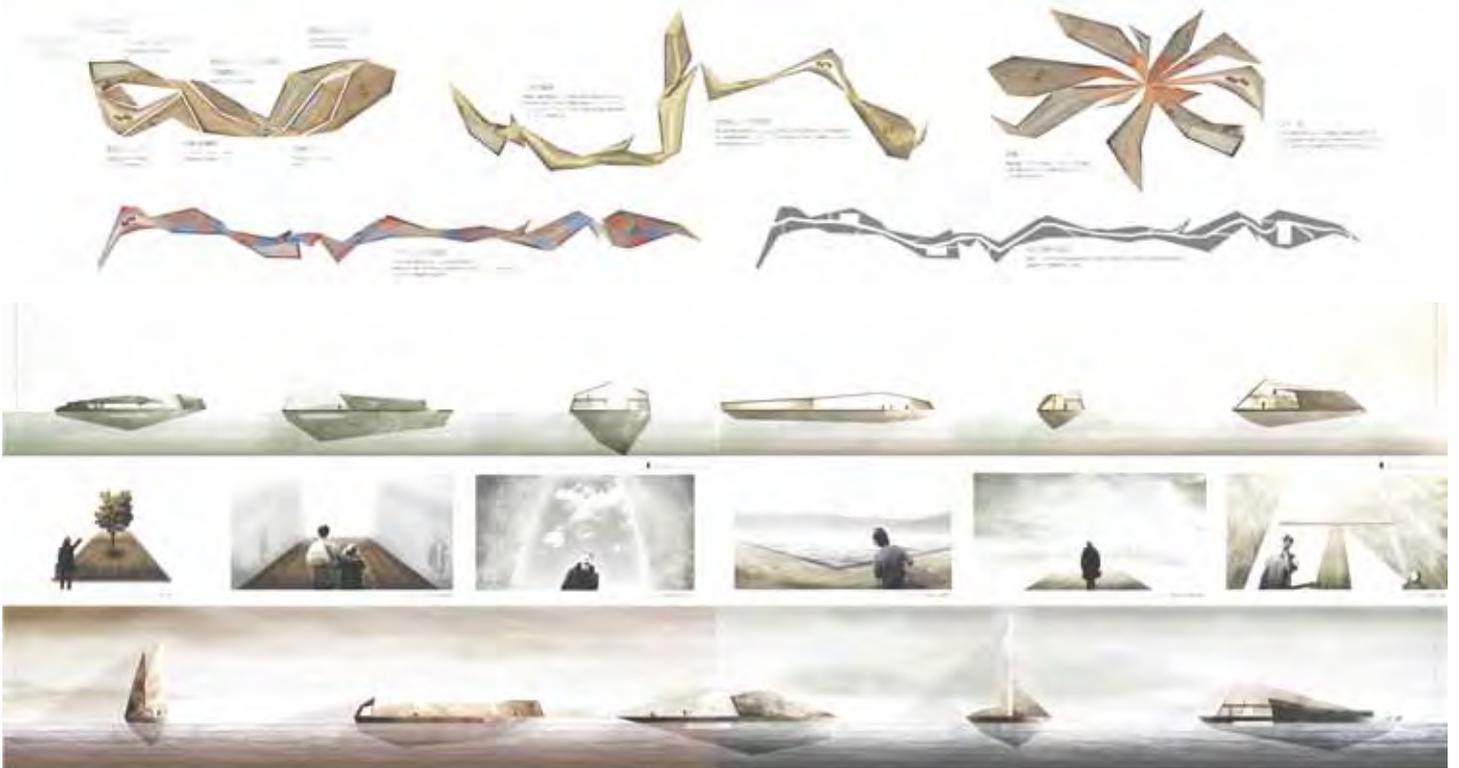
# 揺蕩う島

瀬藤 謙徳  
Akinori SETO  
建築意匠研究室

観光地とはどのようなものだろうか。人が来て、人が出ていく。事前に計画を立て、その土地を楽しむ、家に帰り体験を想起する。文化と観光について、文化とは土地性、生活、生業、によって形成される。時がたつことで文化の礎が深く、根差し、その土地に特色が生まれる。特色が次第に強くなり文化を絶やすことを拒絶する思いが強くなることで観光地となりうるのではないだろうか。しかし、文化を形として残すということは新しい技術を受け入れないということの裏返しである。本計画では、街の景観を壊さず建築を海の上に浮かばせ移動させることで新たな新たな価値と景観を生み出し、瀬の浦に新たな発見ができる複合施設を景観する。



Diploma Design





## 立体農家 - 農と過ごす -

齋藤 伊津実  
Itsumi SAITO  
建築意匠研究室

TPPが締結され、これからは海外の作物などがより容易に手に入れられるようになるだろう。現在でも、海外の作物等が国産のものよりも安価で手に入れられている。しかし、身近になった海外の品物ほどどのように作られ、どのような過程を経て私たちのところまで届くのかは不鮮明である。様々な作物を安価で手に入れられるようになったことで、このまま作物への関心がなくなってしまうのではないかと考えた。そこで、農作物に着目し、私たちが普段口にしている農作物の成長、収穫、販売のルートを可視化し消費者に目を向けるきっかけとなる場、そして都市の中で作物と人々が豊かに農業と暮らしている新しい住み方の提案をする。







# 建築のその向こう

塩澤 竜弥  
Tatsuya SHIOZAWA  
歴史意匠研究室

建築を媒体としてそこに訪れる人とその土地を繋ぎたいと考えた。近代化、工業化が進む中で建築は画一化されその土地から離れがちになる。古の人々が構築物によって自然にアクセスしていたように、これからの建築もまた、建築のその向こうへ意識を向けるべきではないだろうか。地方都市の小さな駅に展望台を設けることでそこにこの地の風景を映出すデバイスとしての建築を建てる。



01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100





## 伝承へ都市に淘汰された集落の軌跡

清水 潤  
Jun SHIMIZU  
建築意匠研究室

都市の発展や人口の増加とともにインフラ整備は各地で執り行われてきた。高度経済成長期、安全で豊かな暮らしを求め半ば強引に手を入れてきた一方、自然や故郷、地域産業など数々の伝統が失われてきた。しかし、それらはあまり公にされず目を向けられず忘れられてきた。それらは限りなく希少で、現在私たちの周りにあふれているものよりも貴重なものである。利便性がある裏側で犠牲になっていくもの数は計り知れない。都市が発展していく最中避けることのできないインフラ整備という膨大な力により消えてゆく伝統や地域資源なるものを守り伝えるインフラと一体となる空間を設計する。

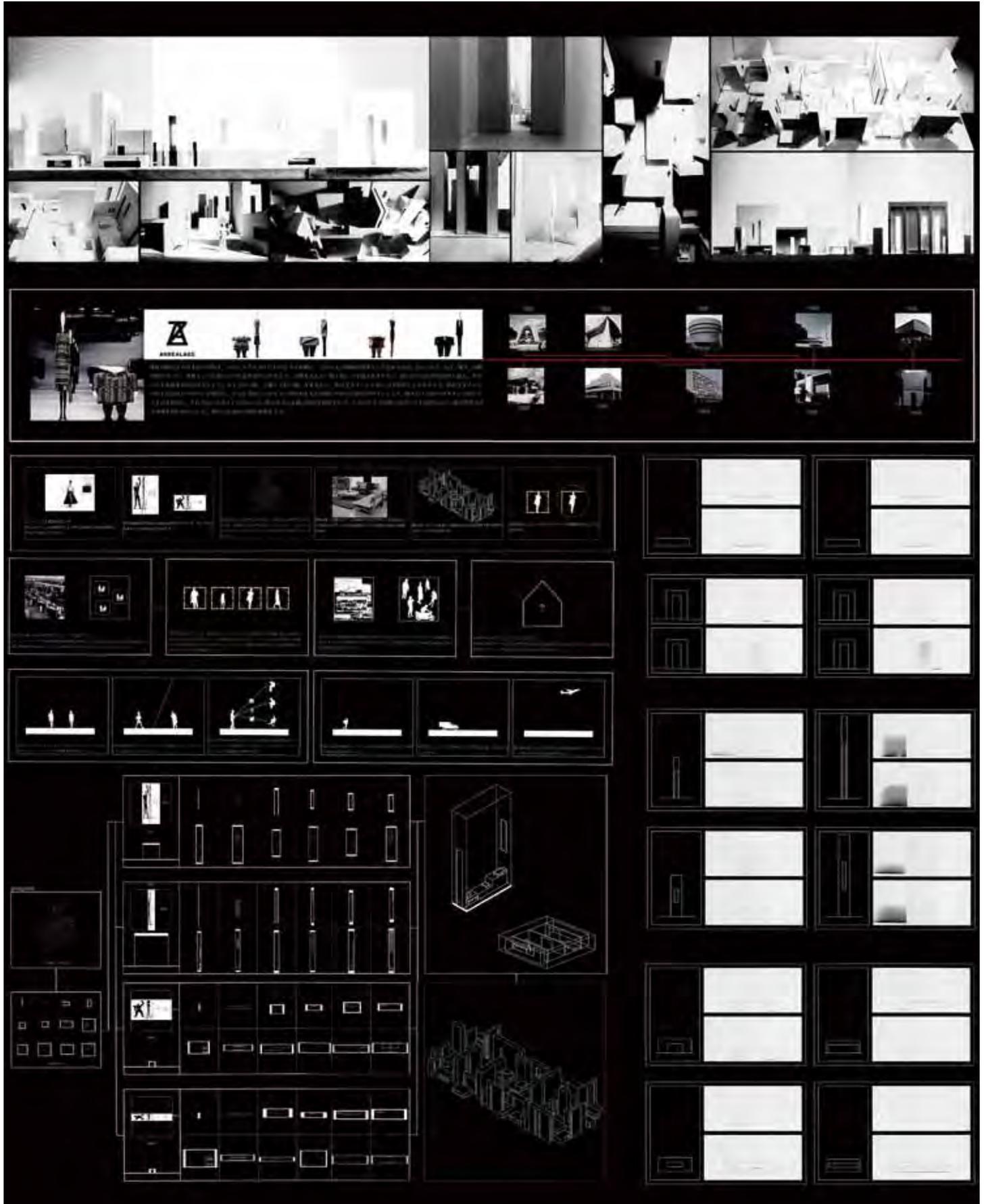




## スケールの再構成

元木 遙  
Haruka MOTOKI  
建築意匠研究室

団地は都市部で働く人の生活スタイルの効率化を図るため同じサイズの住宅を大量生産してきた。公団住宅の空間スケールは均質的な人の体を定規に、均質な生活のスタイルを求め作られてきたのである。建築における背丈や腕の長さによる高さや低さ、肩幅やバストにおける太さや細さ。これら人の体を基準として定められてきた空間の高さ・低さ、太さ・細さは絶対だろうか。本計画において身体という建築における定規を問い直し、現代の都市住居者の多様化する住まい方、複雑化する人間関係を許容する集合住宅を提案する。

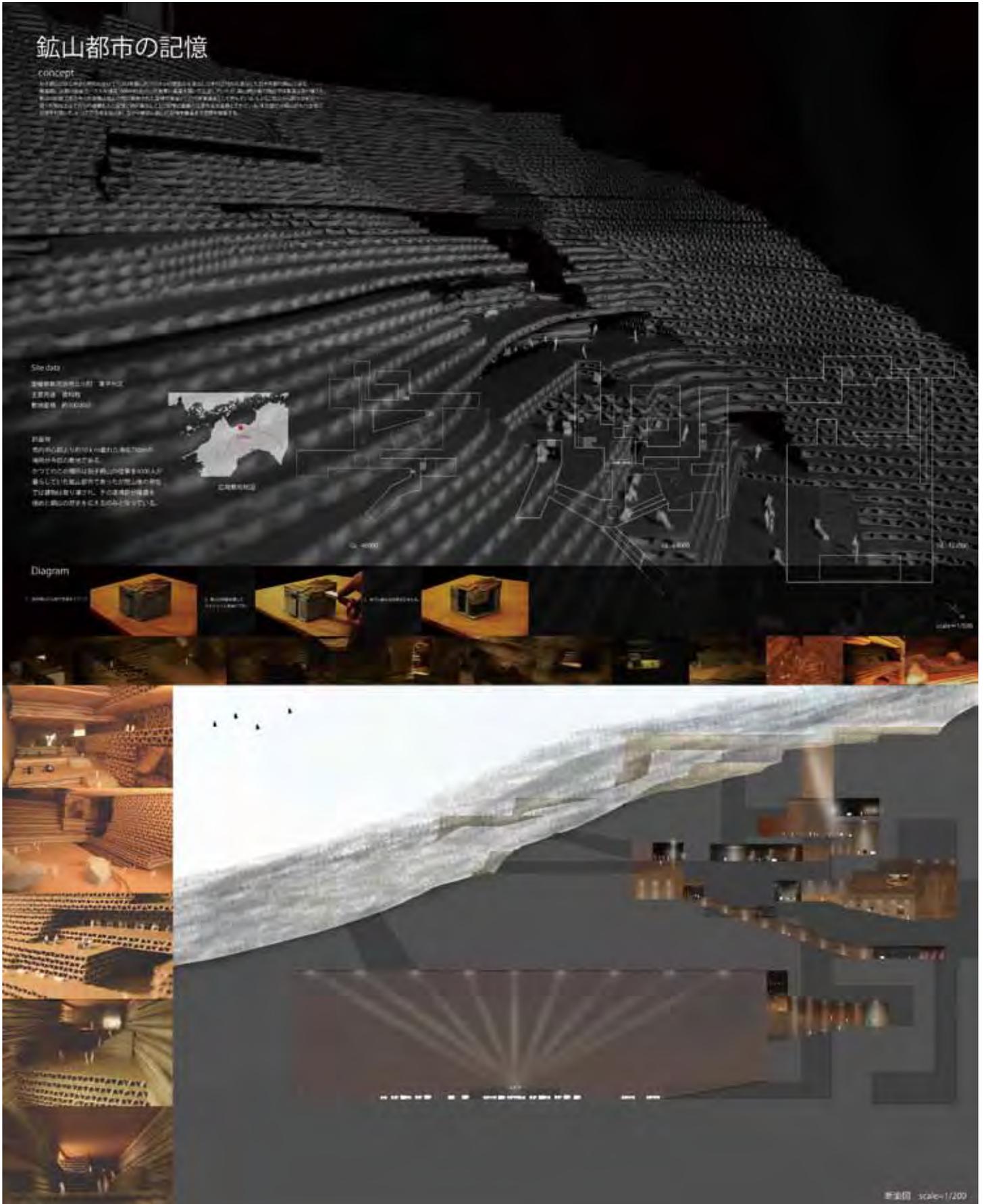




# 鉱山都市の記憶

宮瀬 修平  
Syuhei MIYASE  
歴史意匠研究室

別子銅山とは江戸から昭和にかけての283年間、銅鉱石を産出し日本の近代化に寄与した日本有数の銅山である。最盛期には銅山全体で一万人が標高1000m付近の山岳地帯に集落を築いていたが、銅山閉山後の現在では集落は取り壊され銅山の記憶である多くの遺構は閉山の際に植林された森林の中で近代産業遺産として佇んでいる。しかし、閉山から約半世紀近く経った現在ではそれらの遺構も人の記憶と共に風化しており記憶と遺構の伝承方法が急務とされている。本計画では銅山がもつ土地の記憶を利用して、かつての活気を取り戻しながら後世に銅山の記憶を継承する空間を提案する。





# ART OF FURNITURE

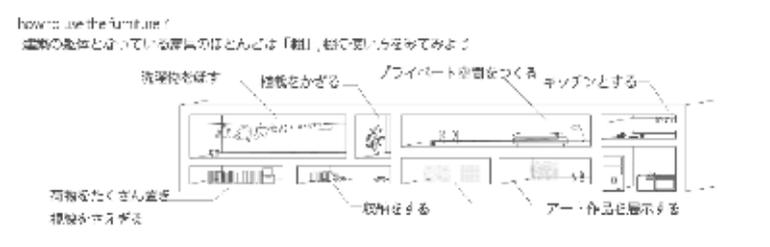
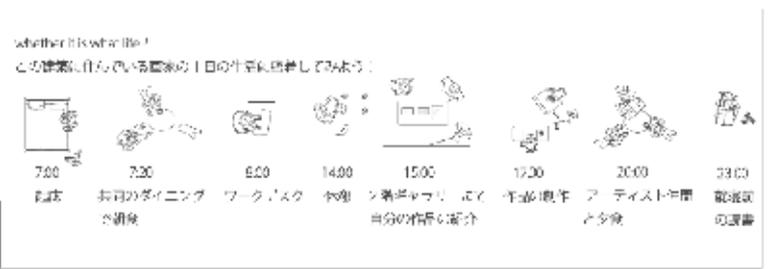
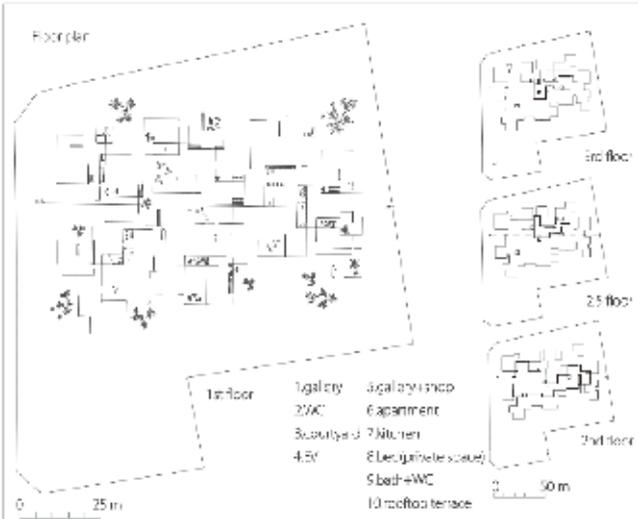
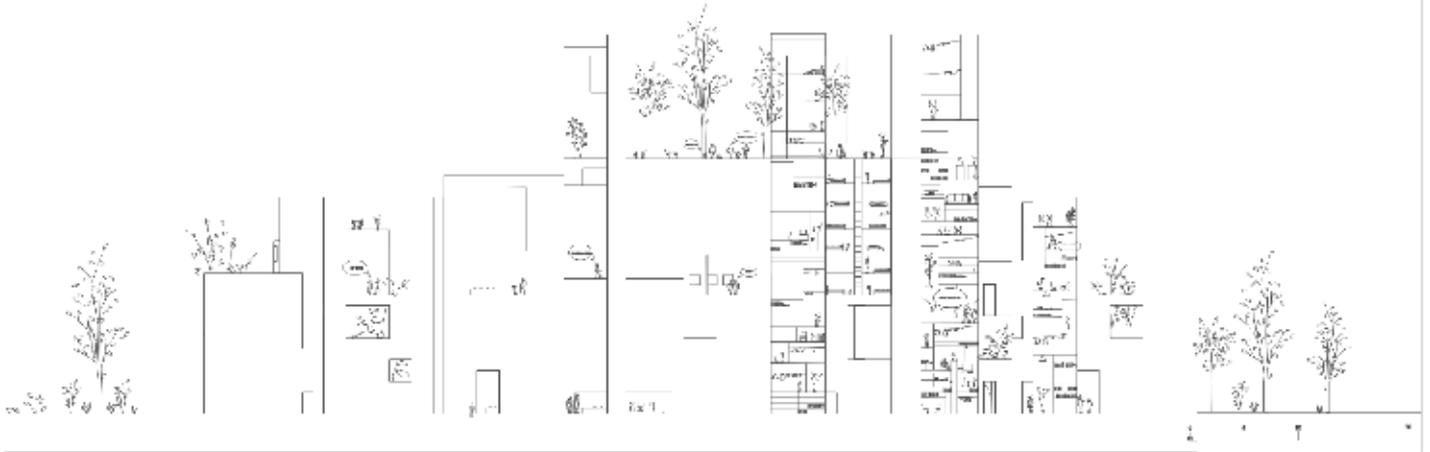
-家具で暮らす、家具で遊ぶ-

渡部 桃子  
Momoko WATANABE  
歴史意匠研究室

海外と比べて日本のアートの発信は劣っており、国民のほとんどが関心を持たない。この建築の提案によりmade in Japanのアートまたはアーティストを世界に発信できる場となり、アート鑑賞が娯楽・趣味となりそこからコミュニケーションが生まれることを期待する。アーティストのためのパブリックな共同住宅兼ギャラリーを設計するために家具を躯体とし、家具の利用やギャラリーをアーティストたち自らが創る事で1人1人の空間が合わさる。そして新しい空間が生まれることで色や音・匂いが表現されて、この建築そのものがアーティストたちにより創り出されるアートとなる。



Section

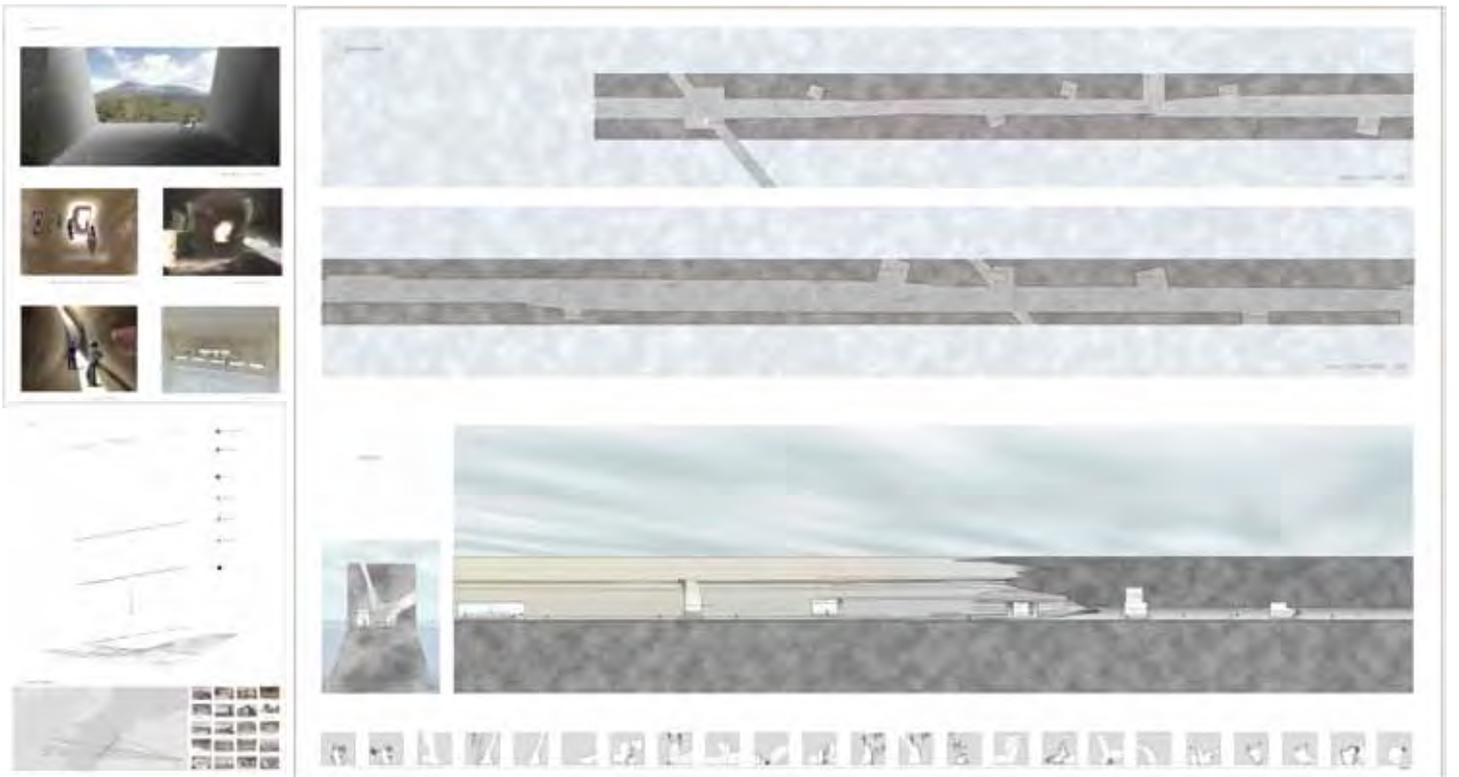
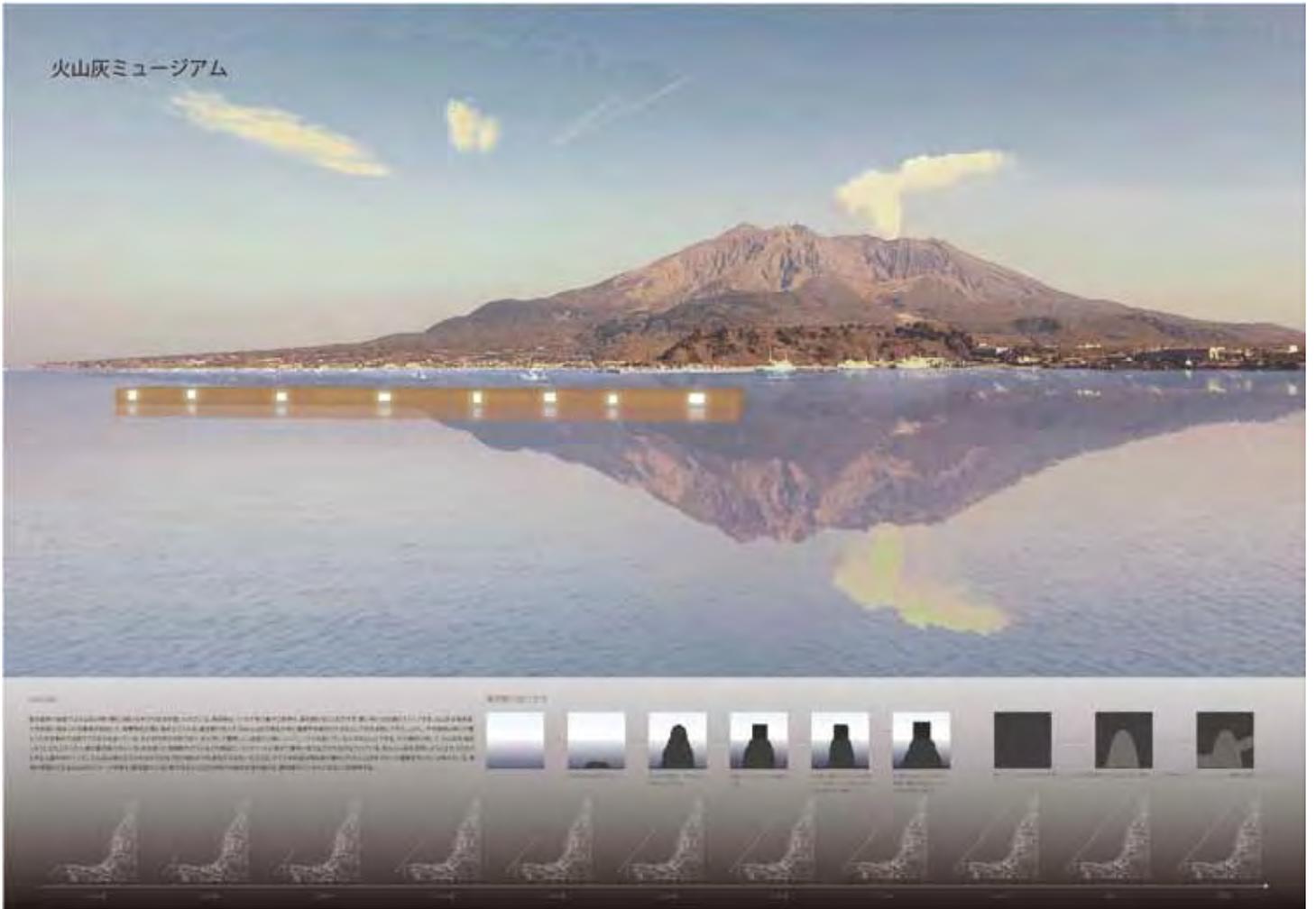




# 火山灰ミュージアム

松田 一明  
Kazuaki MAZDA  
建築意匠研究室

鹿児島県の桜島では火山灰が降る中での生活を強いられている。火山灰は埋め立てられるのではなく別の使われ方もあるのではないだろうか。そこで、火山灰をつかって建築を作りたいと考えた。無用の長物とされる火山灰のイメージを変え、鹿児島島のシンボルとなることを期待する。





# 島廻る記憶 —ダークツーリズムの再構築による新休暇村—

濱本 真之  
Masashi HAMAMOTO  
建築意匠研究室

大久野島は忘れられつつある毒ガス製作の歴史が残っている。にもかかわらずその歴史はこの島に観光に訪れる人ですら知る人は少ない。島に点在する毒ガス製作所としての観光施設と休暇村としての施設が混同し、さらには野ウサギが辺りを駆け巡り毒ガス製作や地図から消された記憶が風化されつつある。そこで本計画は島の記憶を呼び起こし、歴史を後世に残していくための新たなプログラムの提案を行う。そして、それぞれの機能を整理し新たな観光地としての在り方を示す。



Diploma Design



# 都市の船廠

市場 靖崇  
Yasutaka ICHIBA  
建築意匠研究室

海岸部にそびえ立つ巨大なクレーン群。遠くから聞こえる工具の音。呉の街は造船と共に生き続けてきた。しかし、近年では人口減少、高齢化などの現在の地方都市が抱えるそれらの問題を、この造船の街である呉も抱えている。衰退の進む呉の街の現状を打破しこれからの地方都市の在り方を指し示すような力を持つ建築をつくることはできないだろうか。産業という一つの街の力を建築に反映した新たな街の造られ方を提案する。



Kure shipyard Japan Marine United -JMU- Hiroshima, Kure

### Diagram



船を建造する際には船体を部分ごとに造るブロック工法が用いられる。ドックに運ばれた建材は溶接結合され部分的に建築が造られていく。そしてドック周辺に設置されたクレーンによって断面的に組み立てられる。この場所で造られる建築はその構成に乗っ取り、船が造られていくように建造されていく。

### Seen select



この街が開発され続けていく最中も造船所としての機能は失われず、この場所では船が造られ続けていく。建造されていた船が完成した際にはこの街全体で船の着水式が盛大に行われる。



In front of dock  
Material storage  
In town  
Residence



01 section view

02 section view

03 section view



04 section view

G1.+27050  
G1.+20510  
G1.+9350



# 消滅への変遷

松尾 翔  
Syo MATSUO  
歴史意匠研究室

人間は自然の恩恵に依存することで生きられている。しかし人間のつくる建築はその自然環境に馴染めずにいる。建築の最期とは人間が使い人間のために終わるのではなく、それを野生生物や植物のための建築へ繋ぎ自然に還すことが建築の最後の姿ではないだろうか。自然から自立した建築ではなく自然に依存した建築にすることで、その1つの建築にさまざまな多様性を誕生させることができる。それは新たな建築の姿に生まれ変わる。



1 エントランスにはオフィスで働く人、休日を楽しむ人、無病を患える人など多様な人が行き交う。その中に人口的自然をふまえることで建築がその一部を自然に融合させることができる。それにより自然から切り離された環境から自然に依存した建築となる。



2 オフィスの地下で人間の歩を介さない自然が湧き出すことで人口の建築の中で新たな自然が誕生する。歩が経てば植物が土壌の上から人間は感じられる。人間が使っていたオフィスは植物やそれに依存する生物のための建築となる。



3 自然というものについて思考する空間。自然は全く様を別々することで空間が変れ、建築の空間と自然の空間が融合する。



4 ここでは多様な活動が繰り返される。活動が予定しないことで一つの空間という建築物に多様性を発生させることができる。



5 新たな用途としてオフィスを建築する。空間による半座席の空間により通勤の内容を解き放つ新たなアイデアが湧き出る。



6 建築の歴史、建築物を記憶にすることで都市の歴史に対して「抜け」をつくる。その「抜け」に植物や人が集まり自然と環境が変化する。



# 互恵の杜 —木の畑のある暮らしのすすめ—

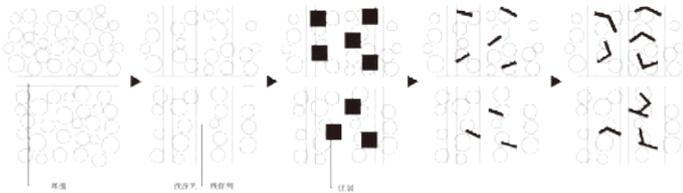
藤井 隆道  
Takamichi FUJII  
建築意匠研究室

本計画では一度人間が干渉したが、時代の変化と共に放置されていた人工林に新しい手法を持って、再度人間が手を加えながら住むことで、互いに恩恵を受け合える、森と人間が互恵の関係にある、林業集落を提案する。



## SYSTEM

### 暮らしと林業の融合



日本の林業はほとんどが単作林方式で知らず、放逐されて廃墟となっているものもある。その構造をアトリスに用いて林業のシステムと暮らしを融合させていく。

引込道路の半道を抜いて5m以上の浅深列を約30m作り、残存した残存木を交互にするように配置を計画する。

残存された既成列をアトリスとして残存列に食い込むように配置を計画する。

立地は残存した木の間を縫うように傾斜を考慮に入れて角丸を決定する。

残存列で仕切られた間伐や伐採を行う。その際は森の空間が広がって光が差し込み、そこに生活空間を縫いながら住む。

## DIAGRAM

### 住居ダイアグラム



周囲の木よりも高いため、ガラスの天井からは心地よい木漏れ日が射す。

### 施設ダイアグラム

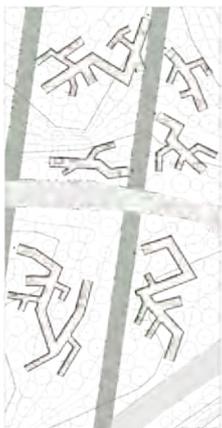


この地塊は山手に囲まれた美しい風景がある

ここに建物を建てることは風景を損ない可能性がある

風景を壊さないよう山の形に合わせた形状をとる

## HOUSING PLAN





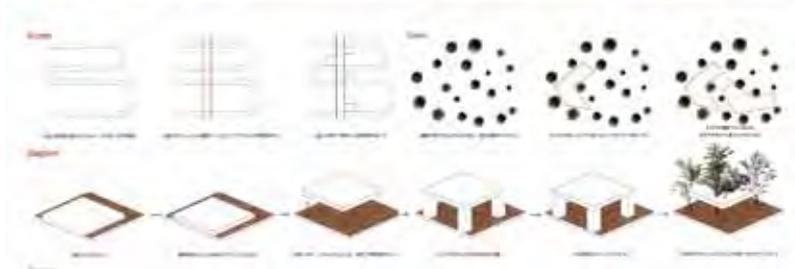




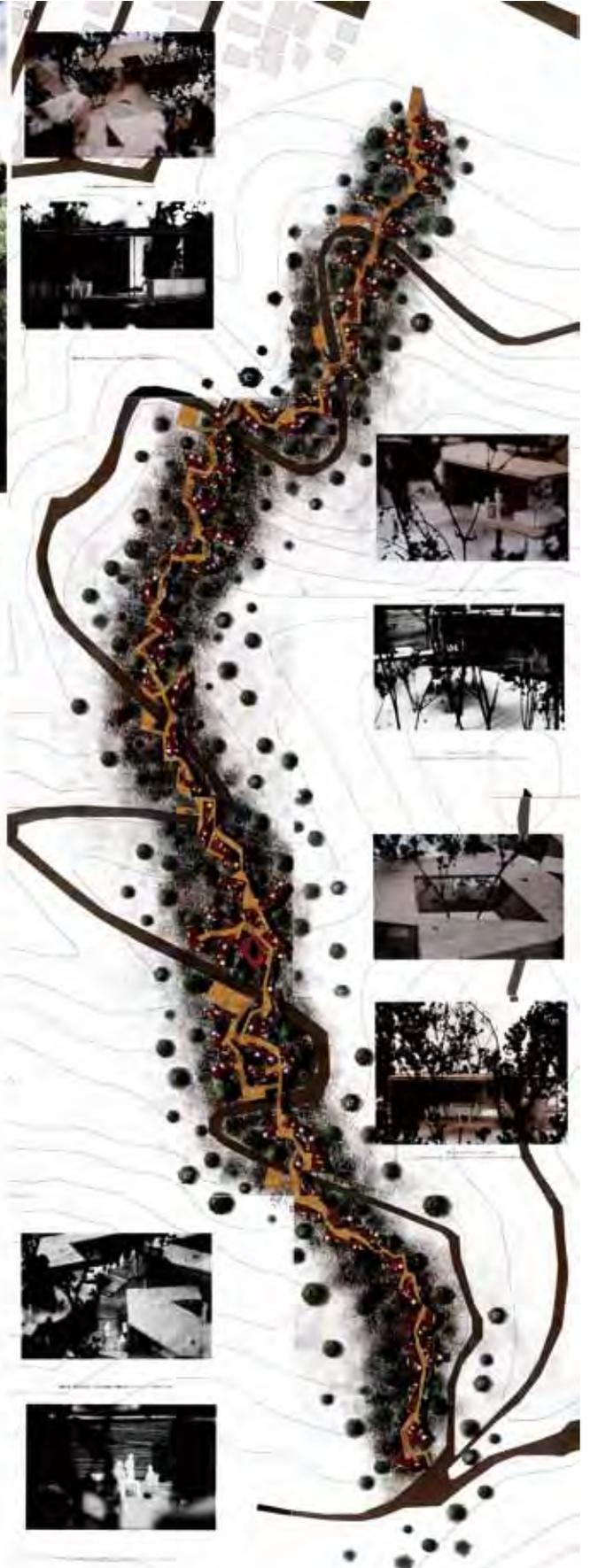
# 自然と建築

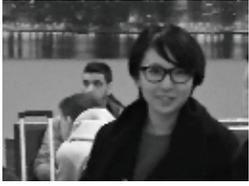
松本 怜大  
Reo MATSUMOTO  
建築意匠研究室

現代社会は都市の巨大化による宅地開発でより住みやすくなってきている。しかし、同時に都市の巨大化による自然破壊が進んでいる。このまま宅地開発が進めれ、自然破壊も進めることは本当に住みやすい環境になっているのだろうか。



<p><b>木</b></p> <p>木は自然環境の中で最も重要な要素であり、人間の生活にも大きな影響を与えています。この設計では、木を積極的に取り入れ、自然環境を再現することを目指しています。</p>	<p><b>一本木</b></p> <p>一本の木が持つ個性や美しさを、建築のデザインに取り入れることで、自然の魅力を最大限に引き出すことができます。</p>
<p><b>コブナ</b></p> <p>コブナは自然環境の中で最も重要な要素であり、人間の生活にも大きな影響を与えています。この設計では、コブナを積極的に取り入れ、自然環境を再現することを目指しています。</p>	<p><b>樹屋</b></p> <p>自然環境の中で生活する人々のために、自然環境と調和した住居を提供することを目的としています。</p>
<p><b>木</b></p> <p>自然環境の中で生活する人々のために、自然環境と調和した住居を提供することを目的としています。</p>	<p><b>木の丸</b></p> <p>自然環境の中で生活する人々のために、自然環境と調和した住居を提供することを目的としています。</p>
<p><b>木</b></p> <p>自然環境の中で生活する人々のために、自然環境と調和した住居を提供することを目的としています。</p>	<p><b>サンゴのデザイン</b></p> <p>自然環境の中で生活する人々のために、自然環境と調和した住居を提供することを目的としています。</p>

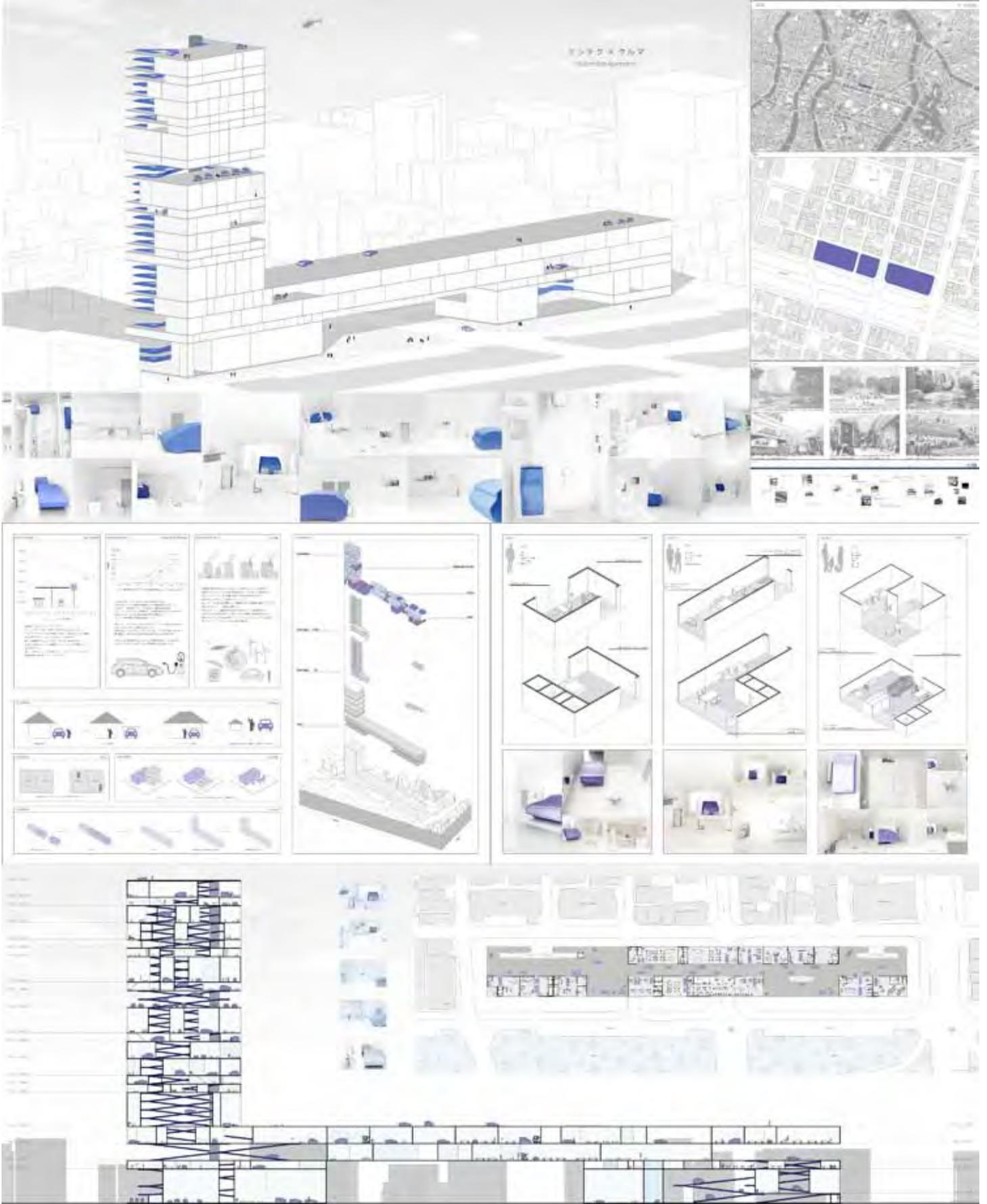




# ケンチク × クルマ —Automobile Apartment—

大川 紗都子  
Satoko OKAWA  
建築意匠研究室

自動車のハイブリット化・EV化が進んでおり、自動車から排気ガスが出なくなる時代はそう遠くないかもしれない。そうなれば、自動車をもっと生活空間に入り込むことも可能になるのではないだろうか。そこで本計画では、建築と自動車の関係を捉え直し、建築と人と自動車が混ざり合うことで形成される複合施設を提案する。



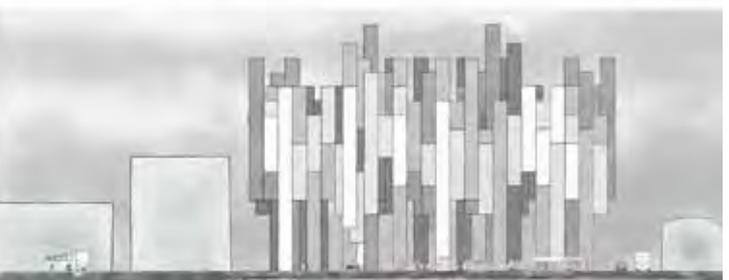
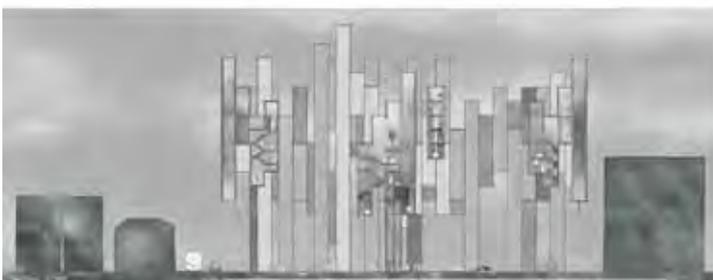
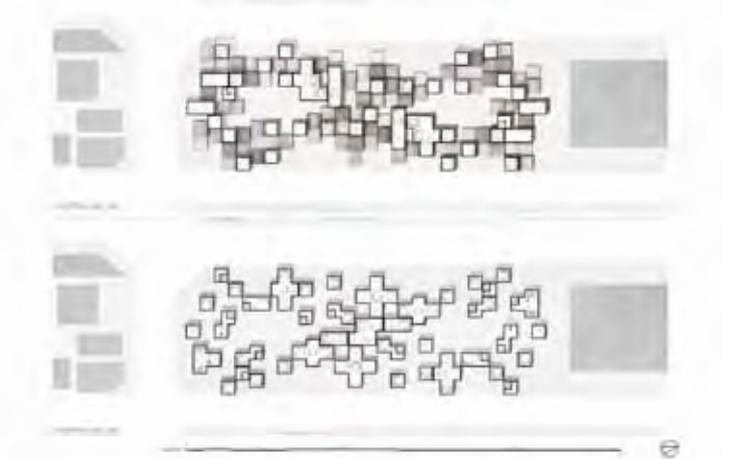
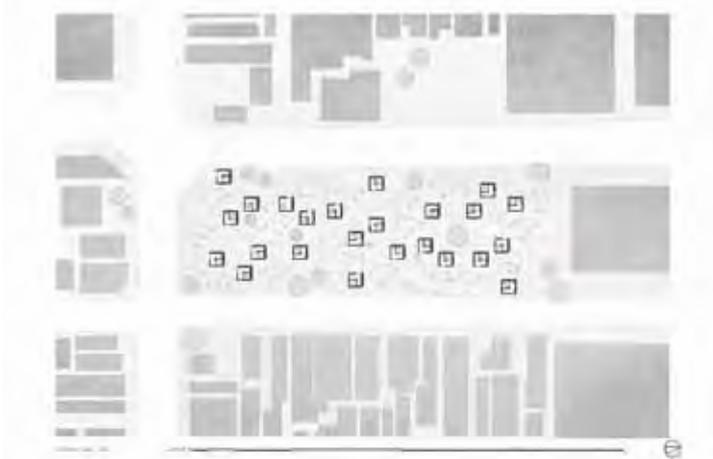
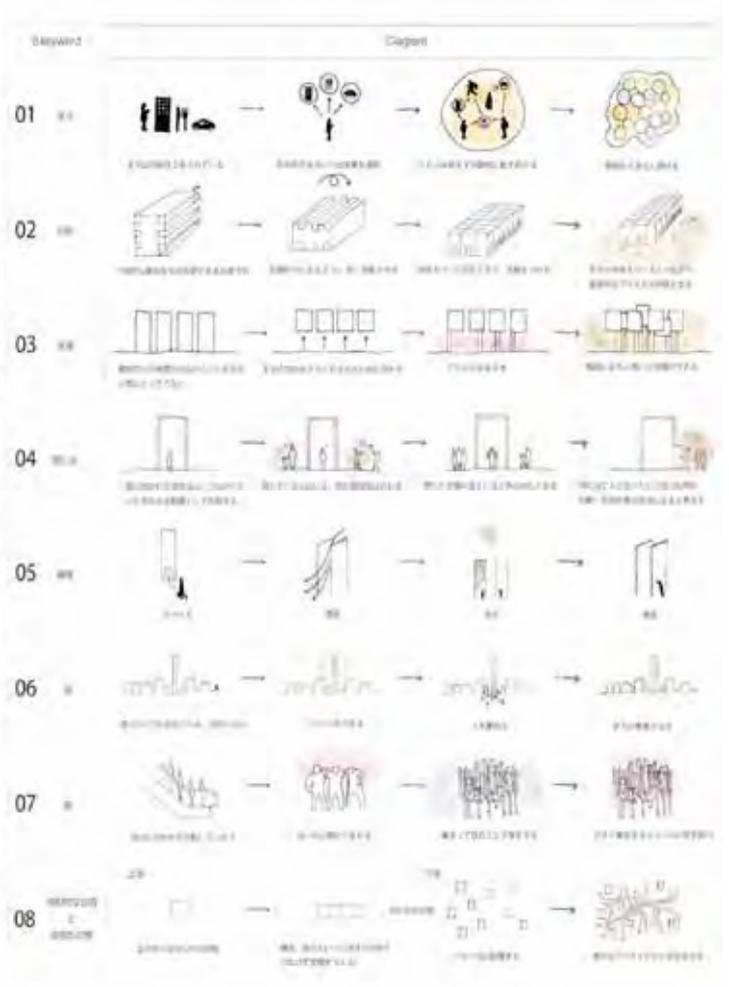


# 繋がり塔

閉じてつなぐまちとのつながり

妹尾 駿志  
Takashi SENO  
建築意匠研究室

共用スペースは曖昧だからこそ交流が起こりにくいのではないか。閉じる操作と開く操作を集合住宅の上部と下部に対して極端に行い、集合住宅の共用スペースをまちの持つ力に委ねることで、ここで起こる出来事は住人の間だけで完結せず、住人とまちの人々を繋げてゆく。そこに真の人と人との交流が生まれ、まちと集合住宅のあり方を新しいものへと変えてゆくことを期待する。

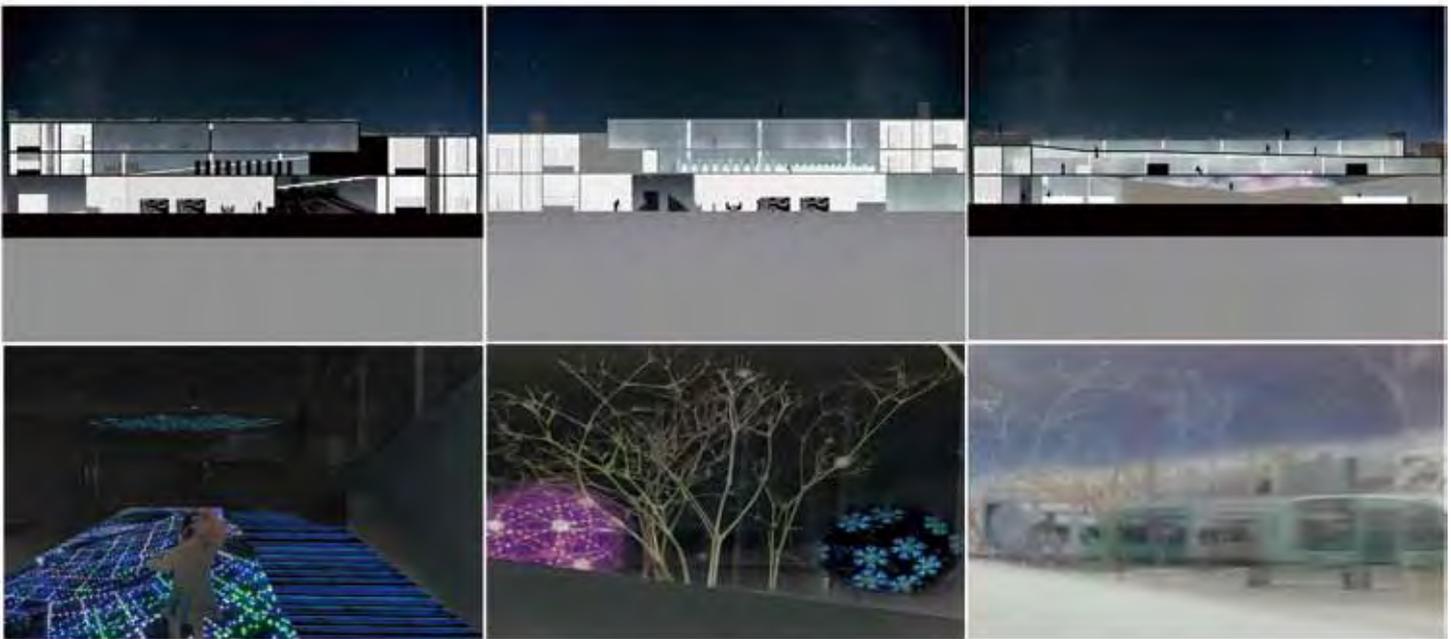
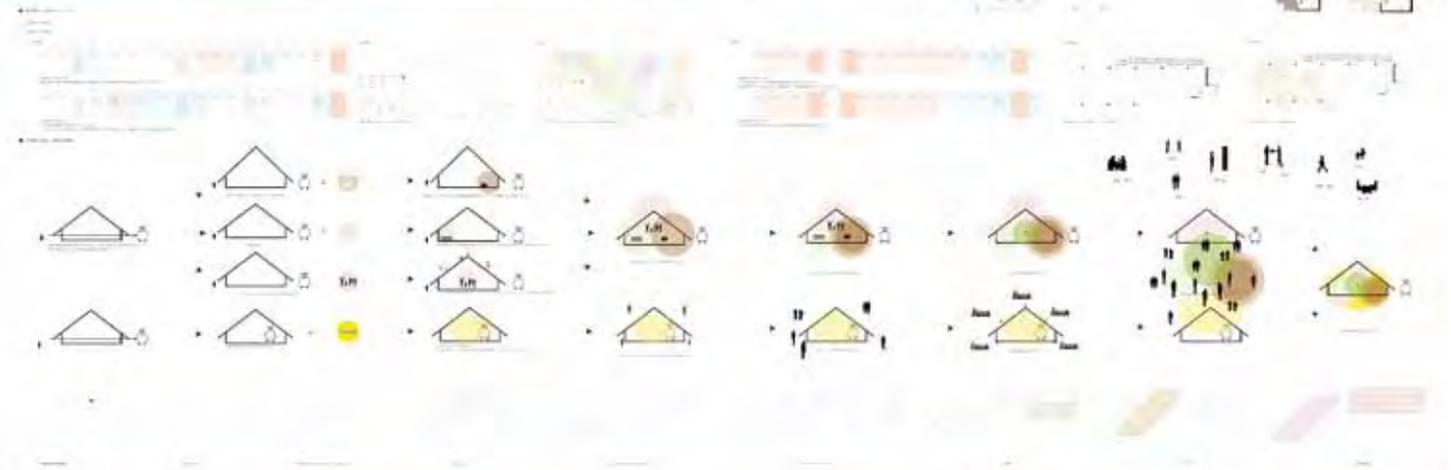
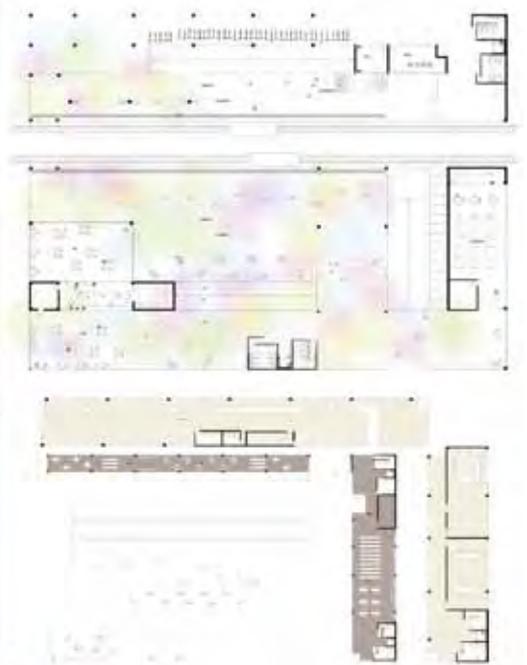




# 駅舎の在り方

阿古目 悠渡  
Yuto AKOME  
建築意匠研究室

都市において駅は人が容易に集まることができ都市の中の位置づけとしては大きな役目を担っている。しかし地方にある駅はどうだろう。ただ鉄道を待つだけの空間で、閑散としてはいないだろうか。駅とはそのまちの象徴になりうる存在である。



Diploma Design





# カンカク

高橋 理沙  
Risa TAKAHASHI  
建築計画研究室

今回の製作で、プレカット工場の廃材を利用した木材をそのまま捨てるのではなく、再利用して新たな使用方法を見出す。



# カンカク

**SITE**

**PROBLEM**

**DIAGRAM**

**MATERIAL**

**FORM**

**HEIGHT**

**WORK PROCESS**

**DRAWING**

**USAGE**



Valley

田村 優作  
Yusaku TAMURA  
建築計画研究室

我々がよく目にするテーブルは一枚の天板に脚が取り付けられたデザインとなっており、天板の形や足の長さを変えることでデザインの幅を広げている。私はこれら以外に、広い天板の表面にデザインを取り入れようと考えた。ガラス、木の積層を使用し、ガラスの冷たさ、木の温かさ、この二つを組み合わせることですらに表現の幅が広がり、テーブルの中に吸い込まれるような美しい空間を創れるのではないかと。

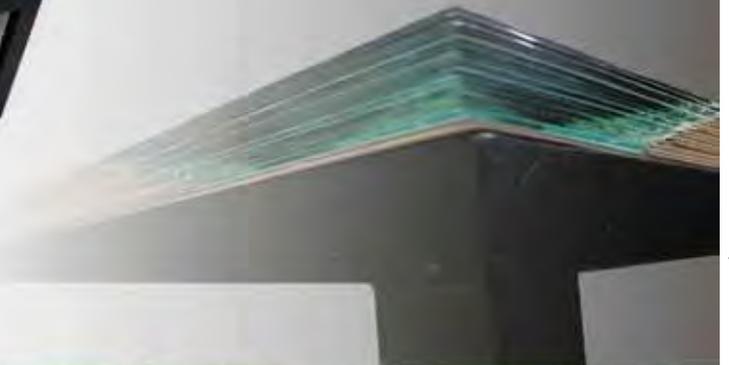


Table and lamination

Production year 2016

Size D900 W450 H345

Material wood, glass, steel



**Problem**

**Concept**

**Style**

**Combination**

**Laminated glass**

**Diagram**

**Design**

**Plan**

**Model**

**Example of use**

**For living**

Type A

Type C

Type B

Type D



# Waffle Chair

北村 高士  
Takashi KITAMURA  
建築計画研究室

「空間に溶け込むようなインテリア」「存在感のあるインテリア」を目指した。格子状に組むことで、背景が背面に映し出されるようになった。また、荷重をダンボールの得意方向である鉛直方向から受けることができるので、耐久性も増し、長期間持続的に使える安全な椅子へと一歩近づいた。背景が映り込む方向と背景が映り込まない方向があり、溶け込むことと存在感があることを共存を可能にした。

## Waffle Chair

Size

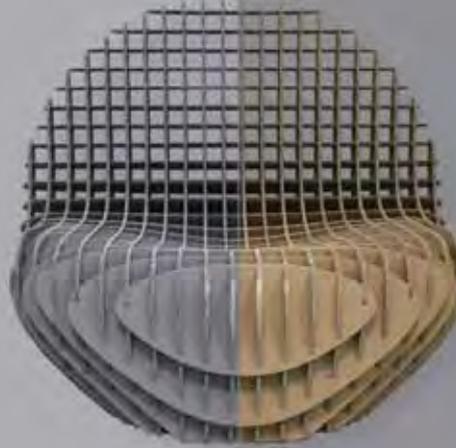
w1096 d784 h1000

Weight

8000g

Material

Cardboard only



Parts

Length 24

Side 22

Price 20000yen

Designer

Kitamura TAKASHI

**CONCEPT**

**DESIGN**

**CONSTRUCTION**

**BLEND & PRESENCE**

**WORKING**

**Work Process**

**CONCLUSION**

Side view

Planned location

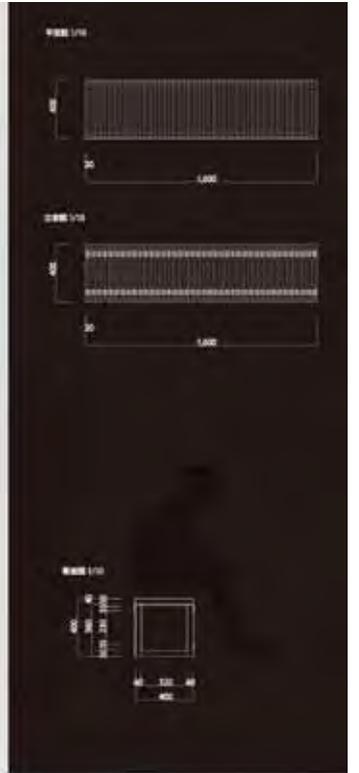
Actual location



# Slinky Chair

森 崇弥  
Syuya MORI  
建築計画研究室

一般的に椅子は、その場のインテリアのイメージに合うものを設置する。しかし、現代ではリノベーションのような、今ある建物を活用し、使い続けるスタイルが普及してきている。そこで、これまでの「空間に合った椅子を設置」という方式ではなく、『空間に合うように変化する椅子』という長所をこのスリンキー・チェアに持たせた。



### Production Process

**Materials**

- 1. 木材 (Wood)
- 2. 接着剤 (Glue)
- 3. 釘 (Nails)
- 4. 電動ドリル (Power Drill)
- 5. 六角レンチ (Hex Key)
- 6. 砂目紙 (Sandpaper)
- 7. 塗料 (Paint)

**Production Tool**

- 1. 電動ドリル (Power Drill)
- 2. 六角レンチ (Hex Key)
- 3. 砂目紙 (Sandpaper)
- 4. 塗料 (Paint)

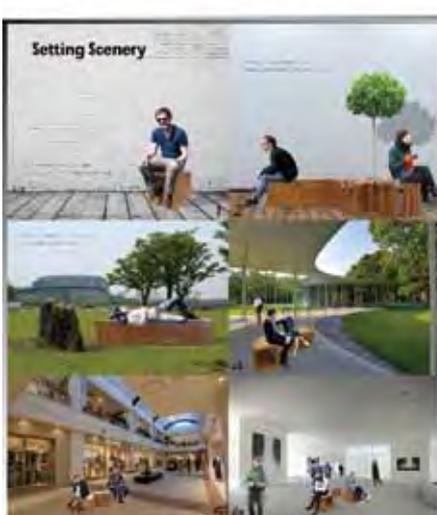
**Process**

1. 木材を加工する (Process the wood)
2. 部品を組み立てる (Assemble the parts)
3. 椅子を組み立てる (Assemble the chair)

### Concept

この椅子は、空間に合わせて変化する。従来の椅子とは異なり、この椅子は、空間に合わせて変化する。従来の椅子とは異なり、この椅子は、空間に合わせて変化する。

**Diagram**



### Color Variation

この椅子は、色も変化する。従来の椅子とは異なり、この椅子は、色も変化する。



## Master's Design

- |    |                                      |       |
|----|--------------------------------------|-------|
| 01 | DRIFT WITH AT THE MERCY OF THE HOUSE | 牧 佑育  |
| 02 | 事象の形態 - 抽象化空間による事象の拡大についての考察 -       | 手銭 光明 |
| 03 | 出来事の器 - 「余白」が生み出す新たな住まい方について -       | 青戸 貞治 |



# DRIFT WITH AT THE MERCY OF THE HOUSE

牧 佑育  
Yusuke MAKI  
建築意匠研究室

現代社会において、人を取り巻く環境は刻々と変化し続けている。建築もまたその環境により多様化してゆく。建築が環境の変化に適応することができなくなると、スクラップアンドビルドや空き家といったことが社会問題として表れる。生物もまた建築と同じく多様な環境にそれぞれが適応しながら生きている。生物はその適応の方法として進化を用いている。環境に適応できない建築と環境に適応してゆく生物、その違いはどこにあるのだろうか。



## concept

### 00 計画概観

本計画では建築の環境に対する在り方と生物の環境に対する在り方を比較考察してゆくことにより、現代の建築にとって必要なものを導き出し、設計を行うことを見据える。



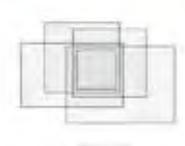
### 01 生物の進化



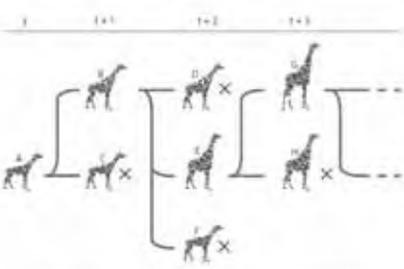
### 05 建築のコンセプト



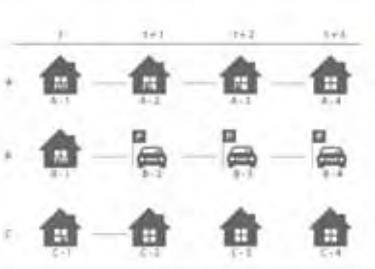
### 06 所需と地域



### 02 突然変異と淘汰



### 07 住宅と駐車場



### 03 淘汰圧



### 04 ニッチ



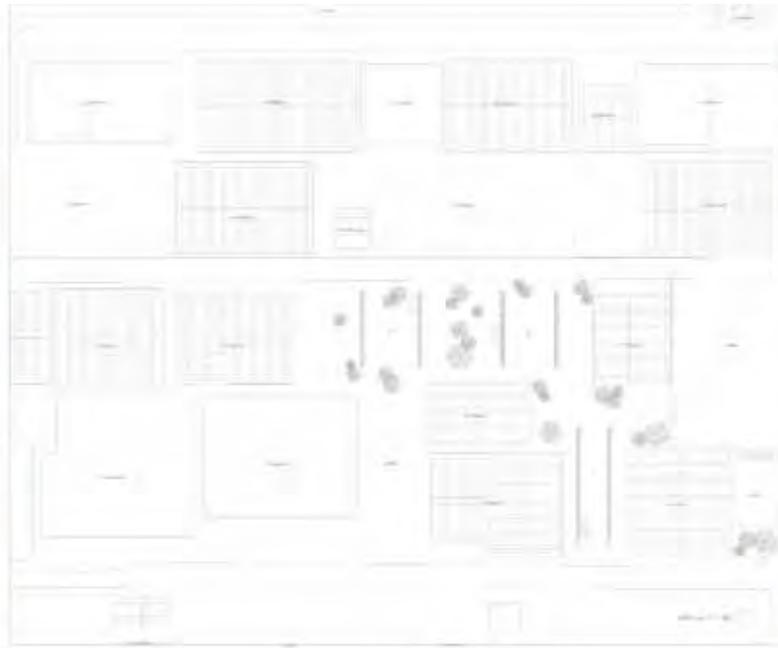
### 08 様式



### 09 つながる建築



nishikaniyacho



showamachi



asahigaoka









## 出来事の器

—「余白」が生み出す新たな住まい方について—

青戸 貞治  
Sadaharu AOTO  
建築意匠研究室

ある一定の地域圏を有する場所で求められる公共空間とは、その都度あらわれるような、ある特定の人、または地域に対し少し開かれ、ゆるやかに共有する空間であり、地域の人たちでもつくれるものではないだろうか。

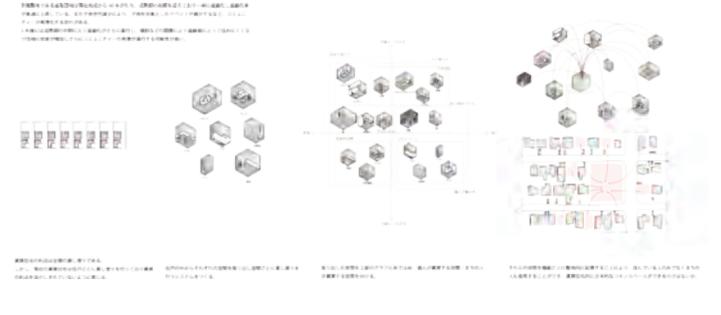
本計画は、人々の多様化する住まい方を許容し、人と人をつなぎ、ひとつの建築から新しいまちの風景がつけられていくような集合住宅を提案するものである。



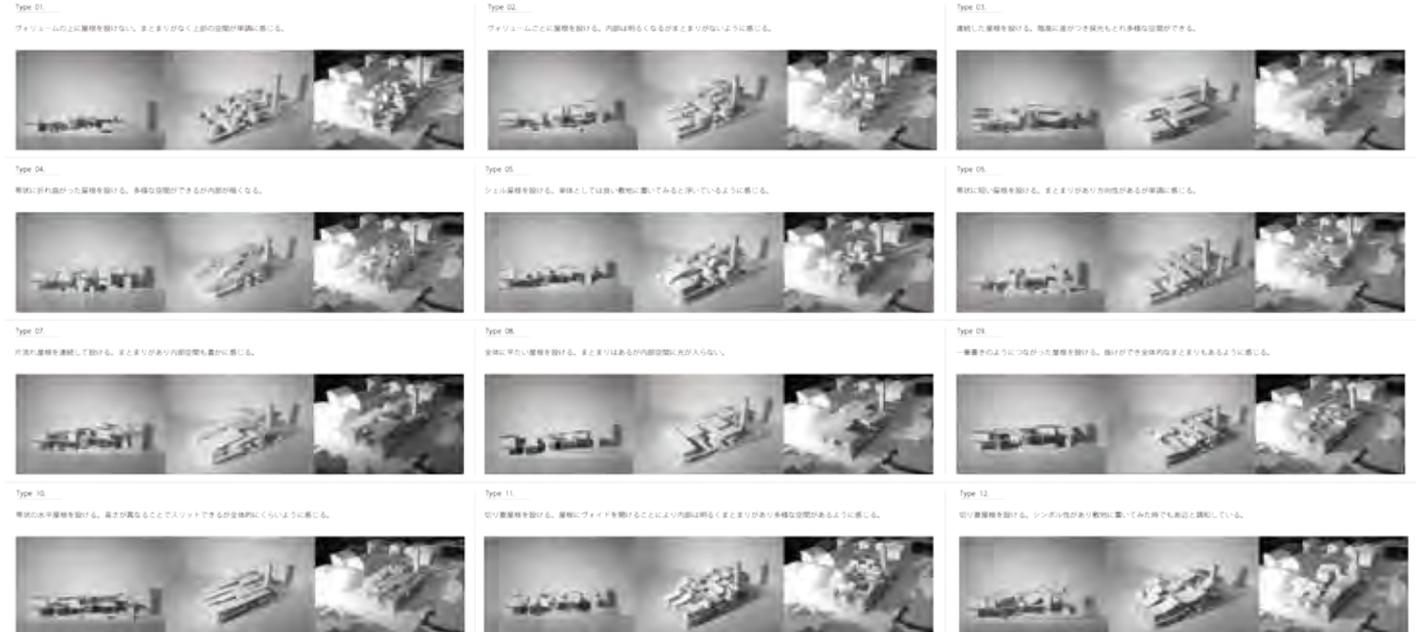
### □ Site

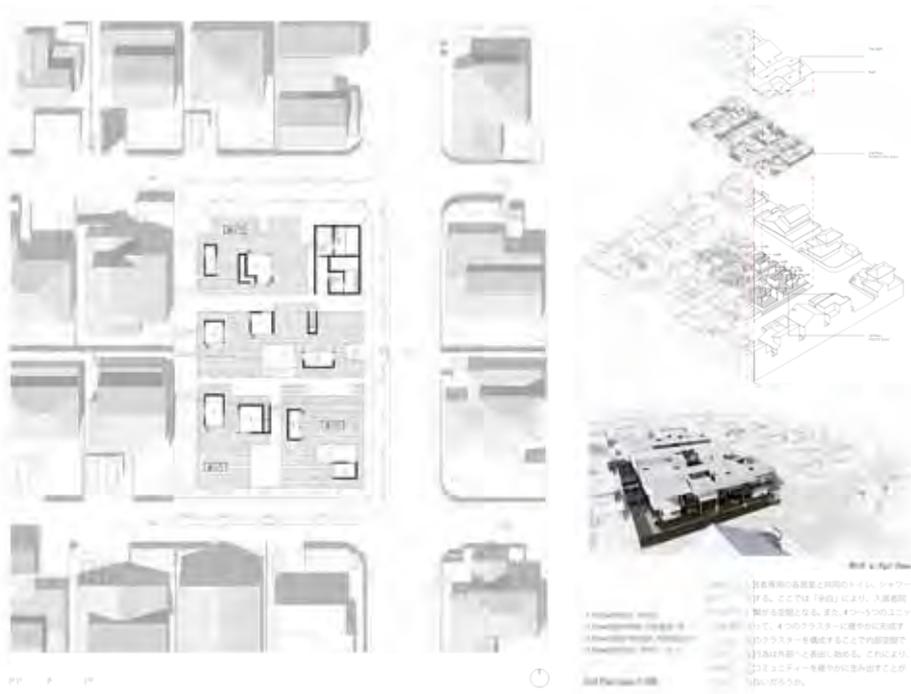
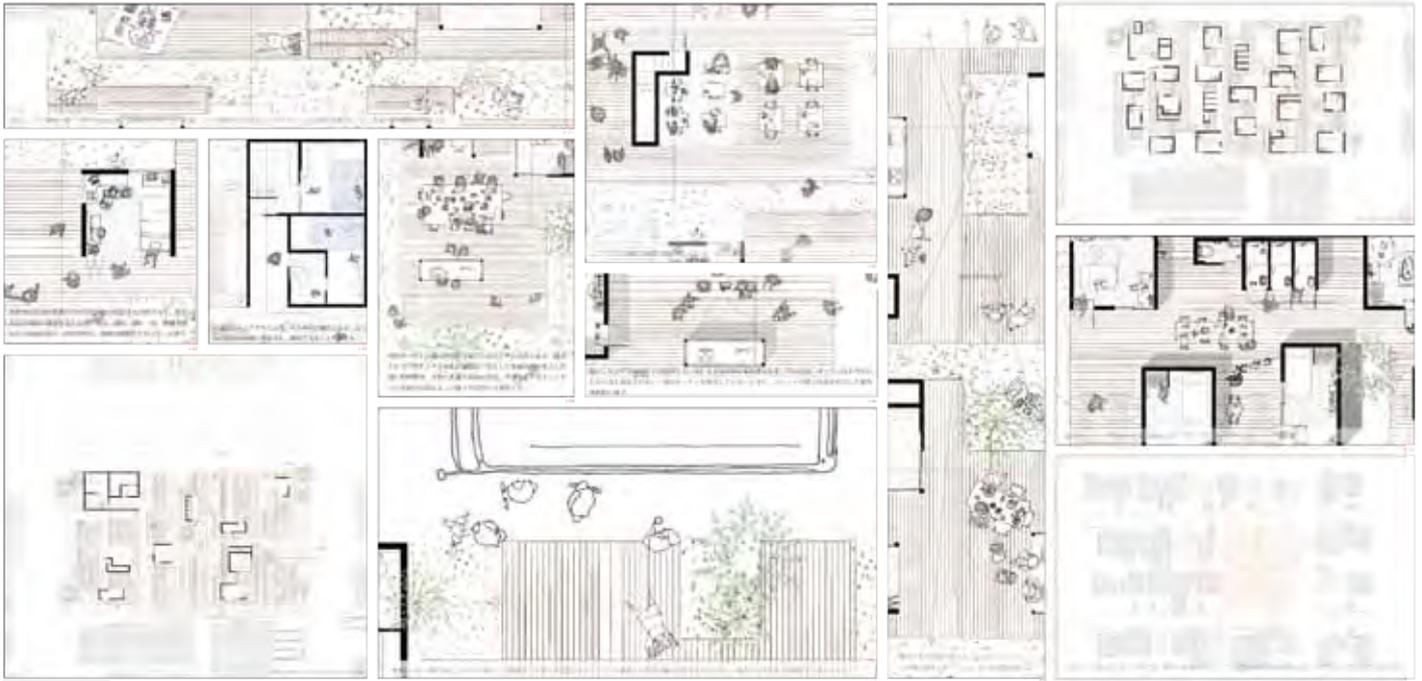


### □ System



### □ Final Study







## Architectural Design Practice

2nd Design	2年	後期建築設計演習 I	01 将来の自邸 02 コミュニティセンター
3rd Design	3年	前期建築設計演習 II	01 現代美術のための美術館 02 集合住宅
3rd Design	3年	後期建築設計演習 III	01 小学校 02 複合施設
集中演習			タマサート大学



将来の自邸  
2年後期第1課題

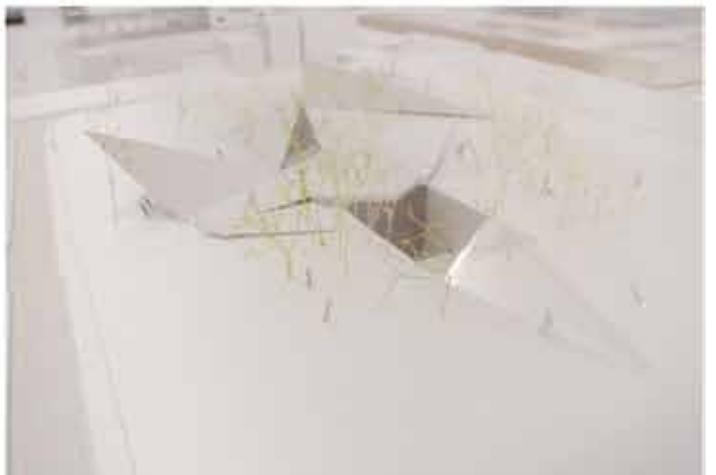
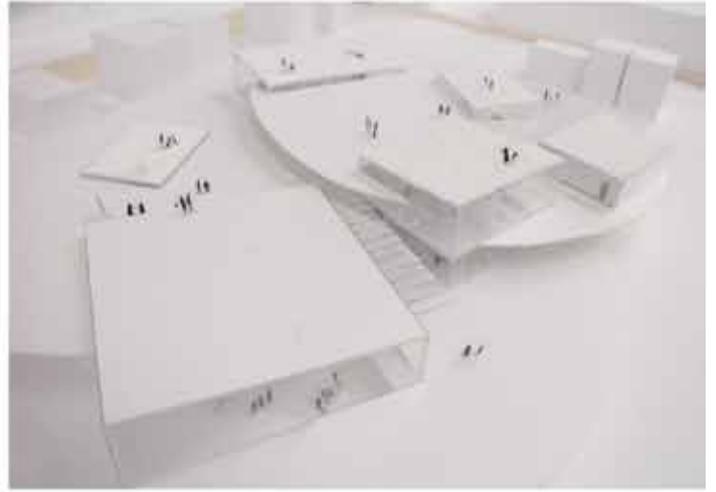


Architectural Design Practice





コミュニティセンター  
2年後期第2課題





# 現代美術のための美術館

3年後期第1課題

西島 満 / NISHIJIMA Mituru



特別講師 建築家 遠藤秀平



Architectural Design Practice

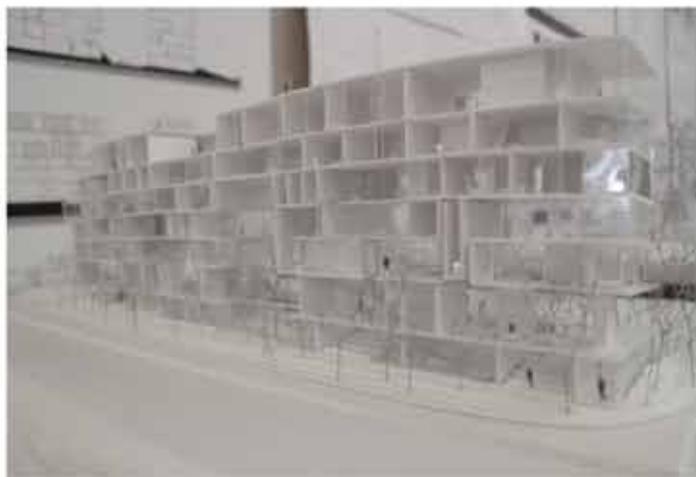


集合住宅  
3年後期第2課題

朽木 遼平 / KUTIKI Ryouhei



特別講師 建築家 谷内田章夫  
株式会社タカギプランニングオフィス代表取締役 高木栄一





# 小学校

3年後期第3課題

笹尾 浩二 / SASAO Kouji



特別講師 建築家 竹山聖



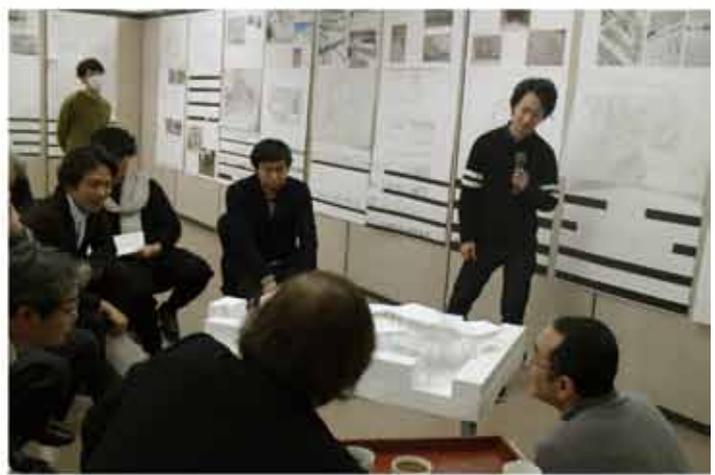


メディアセンター  
3年後期第4課題

青木 康大 / AOKI Yasuhiro



特別講師 建築家 近角真一



集中演習 with Thammasat







## Design Competition

- 01 建築新人戦 2015 \_\_原点が、ここにある
- 02 セントラル硝子国際建築設計競技 2015 \_\_The Glass
- 03 JACS 全日本建築コンソーシアム住宅設計コンペ 2015 \_\_「母の家」～身近な高齢者の1人住まいを考える～
- 04 ひろしま建築学生チャレンジコンペ 2015 \_\_小さな建築の可能性
- 05 第9回長谷工 住まいのデザインコンペティション \_\_100歳の集合住宅
- 06 ユニオン造形デザイン賞公募 \_\_あなたの「どこでもドア」

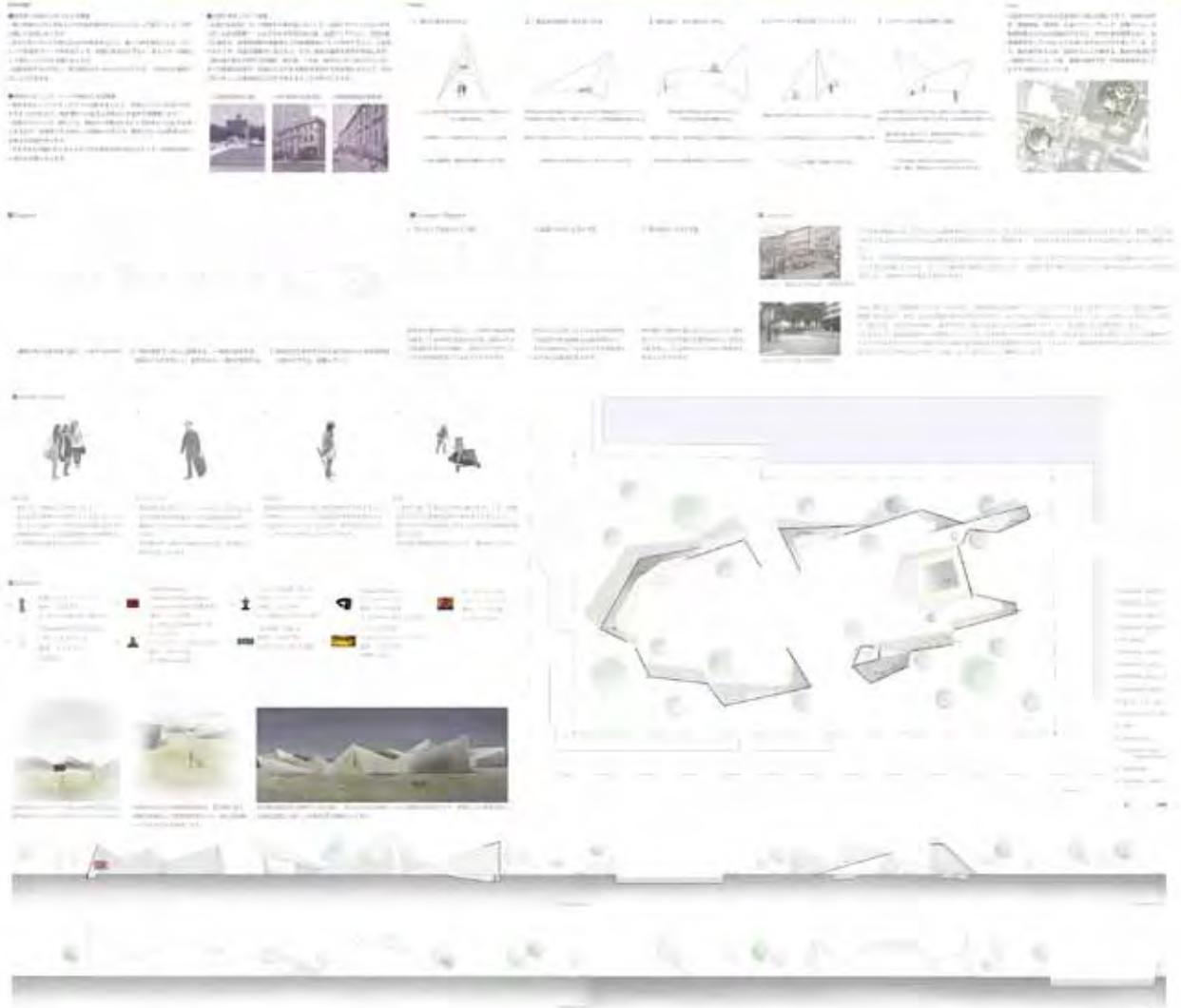


建築新人戦 2015 100 選入選

課題「原石が、ここにある」

その日ここで一人と人をつなぐかべー

野田崇子 / Takako NODA









JACS 全日本建築コンソーシアム住宅設計コンペ 2015 佳作

課題「母の家」

### ベジタ風呂ー野菜とお風呂と父の家ー

濱本真之 / Masashi HAMAMOTO

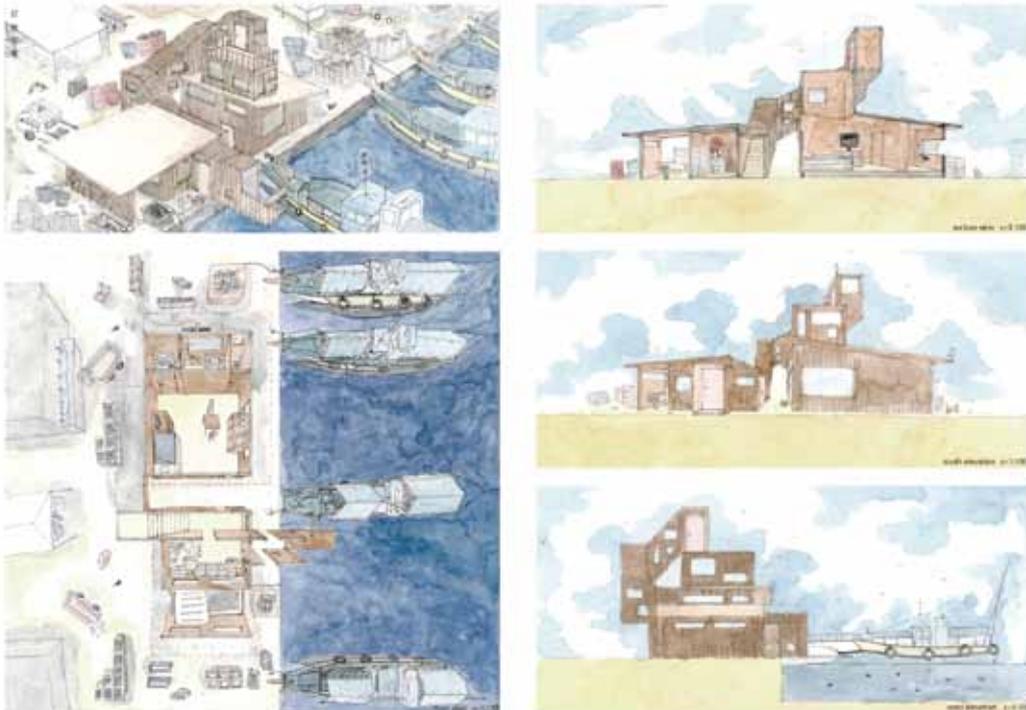


JACS 全日本建築コンソーシアム住宅設計コンペ 2015 佳作

課題「母の家」

### 灯台の家

波邊文彦 / Humihiko WATANABE





ひろしま建築学生チャレンジコンペ 2015 優秀賞

課題「小さな建築の可能性」

# 白帆で広がる物語ーテントでつながるトイレと広場ー

青戸貞治 / Sadaharu AOTO 手銭光明 / Mitsuaki TEZEN





**1 Concept**

この手水屋は、地域の歴史と文化を継承し、人々の交流を促進するための空間を提供することを目的としています。また、環境に優しい素材と工法を採用し、持続可能な建築を実現することを目指しています。

この手水屋は、地域の歴史と文化を継承し、人々の交流を促進するための空間を提供することを目的としています。また、環境に優しい素材と工法を採用し、持続可能な建築を実現することを目指しています。

**1 Factor**

この手水屋は、地域の歴史と文化を継承し、人々の交流を促進するための空間を提供することを目的としています。また、環境に優しい素材と工法を採用し、持続可能な建築を実現することを目指しています。

**1 Zoning**

この手水屋は、地域の歴史と文化を継承し、人々の交流を促進するための空間を提供することを目的としています。また、環境に優しい素材と工法を採用し、持続可能な建築を実現することを目指しています。

**1 Planning**

この手水屋は、地域の歴史と文化を継承し、人々の交流を促進するための空間を提供することを目的としています。また、環境に優しい素材と工法を採用し、持続可能な建築を実現することを目指しています。

**1 Design process**

この手水屋は、地域の歴史と文化を継承し、人々の交流を促進するための空間を提供することを目的としています。また、環境に優しい素材と工法を採用し、持続可能な建築を実現することを目指しています。

**1 Material**

この手水屋は、地域の歴史と文化を継承し、人々の交流を促進するための空間を提供することを目的としています。また、環境に優しい素材と工法を採用し、持続可能な建築を実現することを目指しています。

**1 Passive design**

この手水屋は、地域の歴史と文化を継承し、人々の交流を促進するための空間を提供することを目的としています。また、環境に優しい素材と工法を採用し、持続可能な建築を実現することを目指しています。

ひろしま建築学生チャレンジコンペ 2015 優秀賞

課題「小さな建築の可能性」

## 繋がりの手水屋

演本真之 / Masashi HAMAMOTO 市場靖崇 / Ichiba YASUTAKA





ひろしま建築学生チャレンジコンペ 2015 入選

課題「小さな建築の可能性」

### 白い壁と木のルーバー

藤井隆道 / Takamiti FUJII



ひろしま建築学生チャレンジコンペ 2015 入選

課題「小さな建築の可能性」

### フレームでつながる「まち、ヒト」

末吉真也 / Shinya SUEYOSHI 田上瑛莉香 / Erika TAGAMI





ひろしま建築学生チャレンジコンペ 2015 入選

課題「小さな建築の可能性」

accept—受け取る変化—

中園陽子 / Youko NAKAZONO 福田知美 / Yomomi HUKUDA



ひろしま建築学生チャレンジコンペ 2015 審査員特別賞

課題「小さな建築の可能性」

まちのよりどころ

月待裕貴 / Tukimachi YUKI



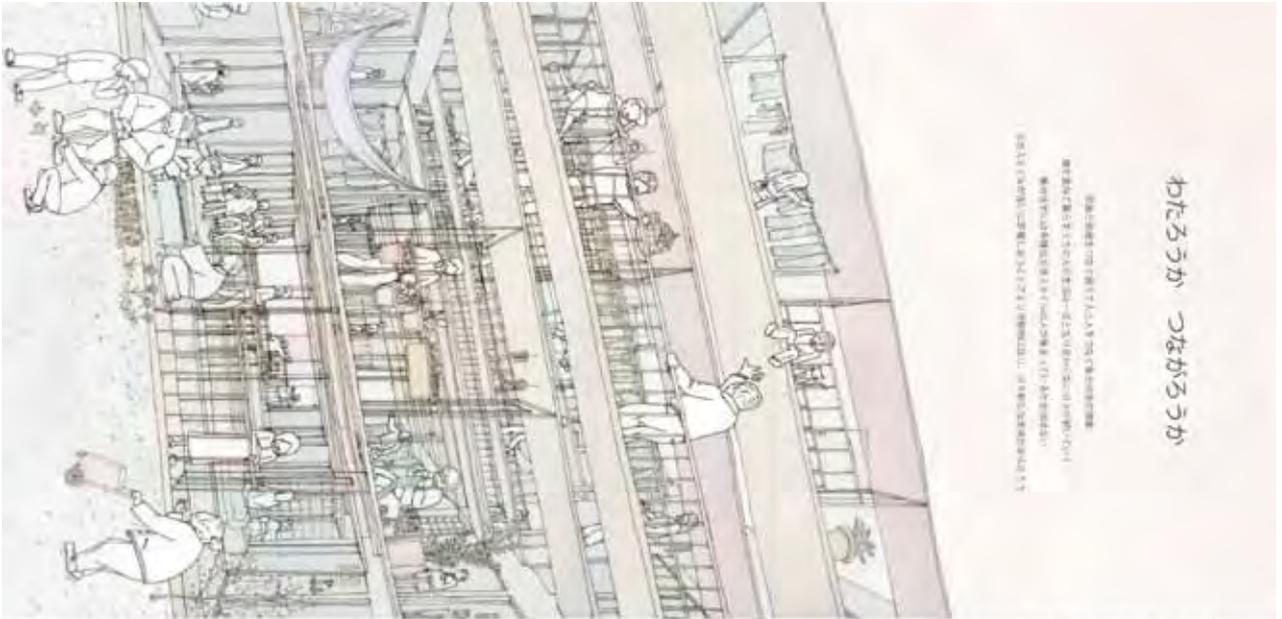


第9回長谷工 住まいのデザインコンペティション 優秀賞

課題「100歳の集合住宅」

わたろうか つながろうか

是常文洋/Humiaki KORETSUNE 武中正英/Masahide TAKENAKA, 月待裕貴/Yuki TUKIMACHI



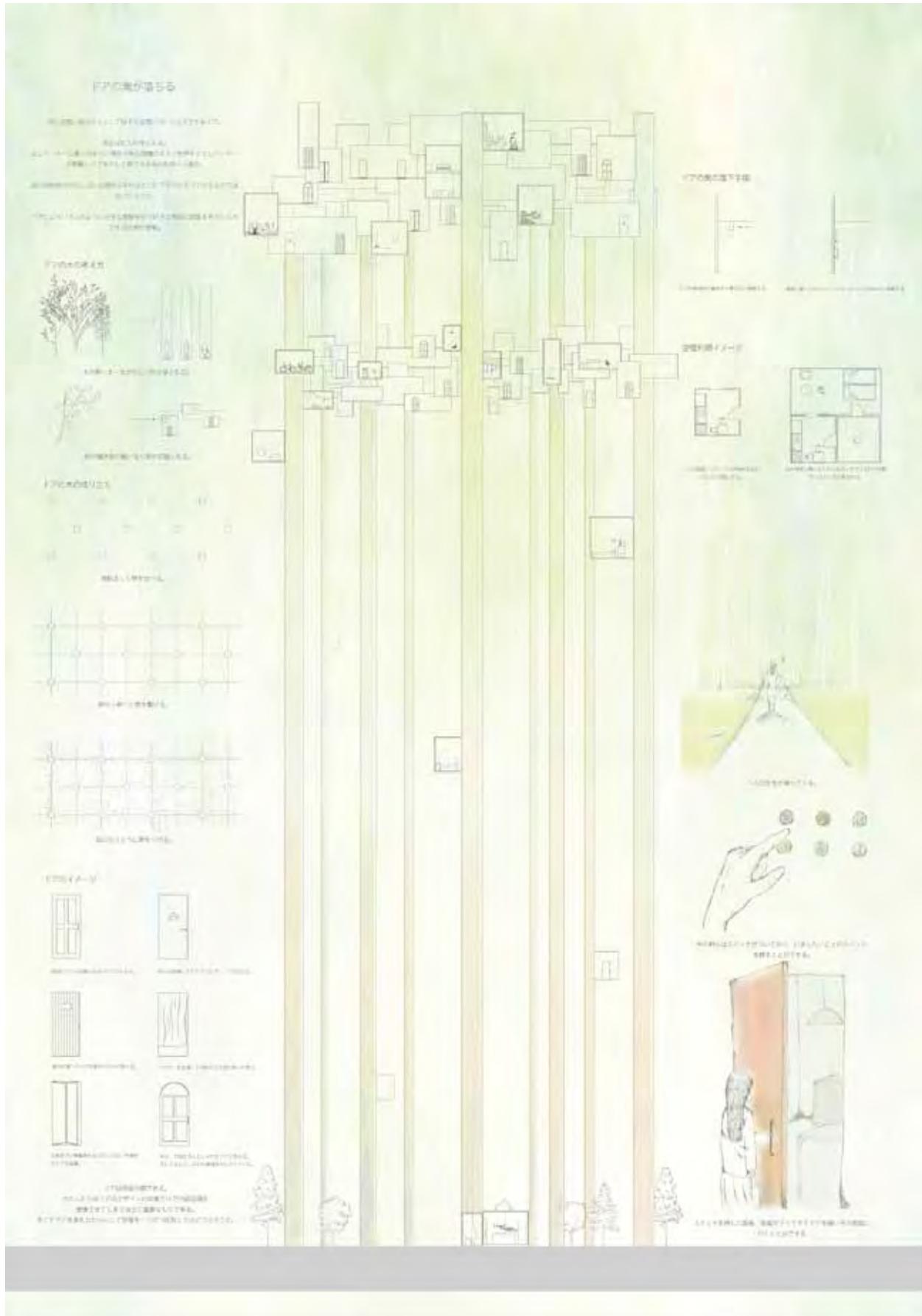


ユニオン造形デザイン賞公募 佳作B

課題「どこでもドア」

ドアの実が落ちる

瀬藤謙徳 / Seto AKINORI



See You Next Year

2015 年度 近畿大学工学部建築学科作品集

平成 28 年 (2016 年)7 月 第一刷

発行 近畿大学工学部建築学科

〒 739-2116 広島県東広島市高屋うめの辺 1

tel 082-434-7000 fax 082-434-7011

<http://www.archi.hiro.kindai.ac.jp/>

編集 近畿大学工学部建築学科

印刷・製本 三原プリント株式会社

本書の全部または一部の複写・複製等を禁じます。

Copyright © Kindai University, All Rights Reserved, 2015